2019/8/7

**捕鯨復活**

2019年07月01日

日本政府は国際的な批判をはねつけ、

1986年以来となる商業捕鯨を再開。

北海道・釧路港でこの日、捕鯨船5隻が出港。

日本は、国際捕鯨委員会（IWC）からの脱退を昨年決め、

この日をもって正式に脱退。

加盟国は、捕鯨を禁止することで合意している。

これに対し日本は、

持続可能な方法でクジラを捕ることはできると

１９９４年以来２５年間、主張してきた。

結論を言えば、「快挙」である。なぜか？

知識(knowledge)が情報(information)を制したから。

歴史的な瞬間である。

「知」が「情」を抑止できたのである。

素人ながら、「捕鯨」に興味を抱き、

和歌山の太地（たいじ）、石巻なども訪れた。

日本国内の旅をしていて、海辺の町々では、

鯨にまつわる施設に出会うことも意外と多い。

捕鯨に初志貫徹のノルウェーは

ミンククジラを捕獲する商業捕鯨国。

世界地理で、北極圏（北緯66度33以北）最大の町の

トロムソは捕鯨で栄えた漁港。

今年1月、この地で開催の「北極フロンティア会議」。

「北極」と聞けば、今や領土拡大のチャンスと、

黙っておれない中国までもが加わり、

海洋環境が重要課題。

**地政学でもこれからは脚光を浴びる。**

「Power of knowledge」議論のなかで、

科学の重要性が再確認され、

**「Information=情報」は「Knowledge＝知識」ではない、**

という発言が再認識されたとのこと！

　――Sailors For The Sea財団　井植美奈子

**今の情報化社会**

気にくわない、肌の合わない、

認めたくない真理や真実を、

埋没させる危険が、日常的に横行しており、

この危険性を熟知しているからこそ、悪用し、

仕掛けた罠に相手や対象が誘導され、

墜ちこむことに、達成感と優越感が満たされ、

しかも、例外なく、

この傾向が全地球的規模で瞬時に拡散している。

アニメ的描写なら、

ここでは、「者」が「物」に変化（へんげ）し、

「未確認物体」が右往左往と漂流しながら、

原生人類を支配する。

2018年の年末、

日本は、国際捕鯨委員会（IWC）を脱退した。

IWCは科学的視点を失ったからとの判断。

井植女史によると、

結果的に、それを後押ししてくれたのが、

反捕鯨筆頭の米国の

科学誌「Nature 565133 2019」と

「Science vol 363 11 Jan 2019」である。

検索したが、hit困難。

日本の水産庁や外務省発行の資料からの

「知識」を肯定し、IWCの機能不全を批判し、

日本の脱退を肯定したのである。

この政府と官の努力を、参院選を控え、

例によって、日本のメディアは黙殺し、

意図的に好意的報道へは不参加。

真実を見ない、聞かない、言わない、

気にはするが反省しないのが、

社是の日本の報道各社の現状が再確認できる。

*朝日新聞社説*

*商業捕鯨再開、国際理解軽視の船出*

*以下、たらたら・・・*

Nature誌は

「日本の脱退は機能不全に陥っているIWCの科学的、

保全的側面を立て直す機会を与えた。

IWCでは科学委員会が内部組織に組み込まれ、

科学の独立性が保たれていない。

例えば1994年に商業捕鯨の再開が可能だと

科学データを示したのに、

議論がその後25年間も決着しない。

日本の離脱をIWC自体の改革の好機と捉えなければ、

続いて脱退する国も出てくるだろう」と主張。

またScience誌も、

「国際的に広がった批判には盲点がある」とし、

「南極海での調査捕鯨からの撤退は**評価に値する**」と述べ、

「2018年9月に日本が

商業捕鯨にかかる持続可能な新案を提案したが、

議論は水産資源の議論から脱線して、

動物愛護にすり替わった」と続けているらしい。

昨年末のIWC離脱に伴い、

遠洋漁業は終わり、沿岸商業捕鯨が復活する。

捕鯨問題までもが、

様々な直面する世相とその流れを提示する。

「情報」は「情」と「報」の合体であり、

「実」と「報」の「実報」ではない。

情報は厚化粧、実報はすっぴんである。

情報は手先加減の「チョンチョン」の世界で、

キーを適当に叩けば可能で、今や

民主主義の要の「チェック」は機能しない。

実報は膨大なエネルギーと時間を必要とし、

さらに、理性的知性と理性的知識を要求する。

戦後の日本や世界の特徴は、

民主主義を誤解釈し、

「情報」拡散こそ民主主義とし、徒党を組み、

結果、情報には化粧（fake）が伴い、

真実（fact）は後退し、仮面情報が前面に突出し、

大衆は、芳香発散のエセ民主主義に酔い痴れる。

音頭高らかに、踊るアホウを増産したのは、

メディアであり、これを憂えるトランプは正しい。

**否、トランプを正しいと思えさせることが問題である**。

善と悪、強と弱、貧と富の二項対立を煽り、

奸智と策略で情報を操作するメディア世界の今。

ここでは、被害者さえ加害者に瞬時にして入れ替わる。

でも、嘆く必要はない。

自己の立つ位置さえしっかりと確保しておけば。

**夏目漱石　曰く**

**智に働けば角が立つ、情に棹させば流される**

解釈は、時代により、様々に可能である。

付記　捕鯨　賛成・反対国を調べる

・捕鯨条約国　８９（含む　日本）⇒８８

・賛成国：３７（含む　日本）、反対国：４８、

中立：３、不明：１

・中立はオマーン、デンマーク、

中国（規則は自国で決める）

・不明はドミニカ国（ドミニカ共和国とは別）

・ドミニカと称する国が二つあること知る。

・カナダは捕鯨するので国際捕鯨委員会に入らず。

陸揚げされた新物を未だ食せず。